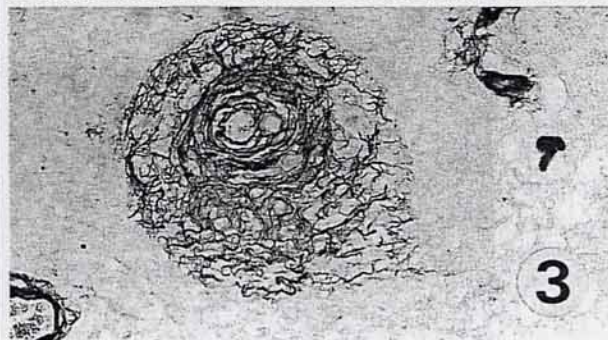
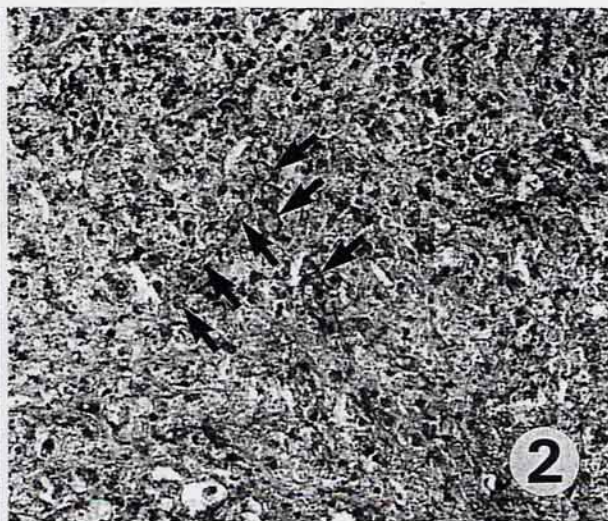


# 馬の脳

日本中央競馬会競走馬総合研究所出題 第37回獣医病理学研修会標本No.698



動物：馬，サラブレッド種，雌，4歳，競走用。

**臨床事項：**2歳時に牧場において、副鼻腔の蓄膿症（右側）の手術を受けたとの稟告があった。1994年12月24日鼻カタルを示し、膿性鼻漏の排出がみられたため加療したところ良化した。1995年9月23日滋賀県から茨城県に転厩のため移動した。同年10月20日に頭部下垂がみられ、左側に斜頸し、運動失調を示した。左眼瞼を半分閉じた状態で、左側咬筋の削瘦を認めた。11月13日には運動失調の著しい悪化がみられ、予後不良と診断され、安楽死後剖検に付された。

**剖検所見：**1)左側大脳前頭葉における鶏卵大腫瘤の形成。2)左側前頭洞および副鼻腔における粘液性化膿性炎。3)右側肺後葉における限局性硬結巣形成。

**細菌検査：**左側大脳前頭部から *Aspergillus fumigatus* が分離された。

**組織所見：**左側大脳前頭葉において、大小不同の肉芽腫が散在性に形成され、中心部では互いに融合して不規則に広がる壊死巣を形成していた（写真1）。

肉芽腫の中央部には壊死した多数の好中球、若干の好酸球浸潤を認め、これを圍繞して多核巨細胞、類上皮細胞、脂肪顆粒細胞がみられた。肉芽腫や壊死巣の外層部にはH E染色ではほとんど染まらず、PAS陽性で隔壁を有する細長い菌糸が多数認められた（写真2; 矢印は菌糸）。肉芽腫や壊死巣の周囲には、膠原線維の増生がみられ、さらに形質細胞やリンパ球を中心とする囲管性細胞浸潤およびグリアの増生がみられた。一方、肉芽腫近隣の細小血管周囲には鍍銀染色で細網線維の顕著な増生が認められた（写真3）。

**考察：**本例は約2年前に副鼻腔に蓄膿症を発症、円鋸術が行われており、脳血管系には菌糸の増殖がみられないことから、左側に波及した化膿性副鼻腔炎に伴ったアスペルギルス菌の左側大脳前頭葉への感染によると考えられた。

**診断：**本例では脳以外の主要臓器からは真菌が分離されなかったことから、馬の脳アスペルギルス症（cerebral aspergillosis）と診断した。